



県内首長インタビュー⑤1

伊奈町 大島 清 町長 (68歳)



半世紀近く伊奈町の振興発展に関わってきた経験も豊富な大島町長は「新生・伊奈町」を掲げ、邁進中！

伊奈町は埼玉県のほぼ中南部、都心から40kmに位置し、東の境を綾瀬川、西の境を原市沼川が流れています。町域には山がなく、平地で形成されているため、伊奈町一帯は古くから農耕が営まれ、江戸時代には伊奈備前守忠次による治水灌漑工事により水田地帯として開けました。昭和18年（1943年）に小室村と小針村が合併して「伊奈村」となり、昭和45年（1970年）には町制施行により現在の「伊奈町」が誕生しました。農村地帯として発展を続け、現在も自然林など、緑豊かな自然が数多く残っています。

前述の伊奈備前守忠次は、天正18年（1590年）に、それまでの軍功によって武蔵国小室・鴻巣の1万3千石を賜り、その館を小室郷丸山（大字小室）に築きあげました。忠次は、代官頭として関八州の天領（幕府の直轄地）を治め、関東を中心に各地で検地や新田開発、河川改修などに貢献しました。現在、関東各地に残る「備前渠」や「備前堤」と呼ばれる運河や堤防は、いずれも忠次の官



伊奈氏屋敷跡（写真右）と障子堀の遺構（写真左）。「障子堀」とは、その形が障子の棧に似ていることから呼ばれていますが、現在は埋め戻して保存されています。

位「備前守」に由来しており、伊奈町の町名は功績を成した伊奈備前守忠次にちなんだものとされています。

■農耕のまちから住みよい住宅のまちへ

昭和58年（1983年）の伊奈町と大宮市（現さいたま市）を結ぶ埼玉新都市交通伊奈線「ニューシャトル」の開通を機に、伊奈町は大きく変化しました。

町内にはニューシャトルの駅が5つありますが、各駅の区間が約1kmと短く、町民の足として利用されて

います。沿線には、県民の地域づくりのためのボランティアや社会福祉、社会教育、青少年、女性、高齢者などの諸活動の促進や、生涯学習の充実のための



地下1階、地上11階、503床の規模で、最新設備を有す「県立がんセンター」。県民のがん克服の期待を担います。

「県民活動総合センター」、大学のように生徒自身で講義を選択できるユニークな教育システムを採用した「県立伊奈学園総合高等学校・中学校」、県のがん医療の中核「県立がんセンター」などの県の施設が立地しています。

なかでも、「けんかつ」の愛称として知られる「県民活動センター」は、最大110名までの宿泊に対応し、会議や研修はもちろん、冠婚葬祭や静養、宿泊にも利用できます。館内には伊奈町の出張所もあり、住民票などの証明書の発行が可能となっています。

また、平成25年12月に新築移転した「県立がんセンター」は、先進のがん医療を提供し、地域の医療機関と連携して埼玉県のがん医療の向上と均てん化を図っています。

ニューシャトル沿線には、大型のショッピングセンターやファミリーレストランなども次々に開店し、都市基盤整備が進んでいます。また、それに比例するように、人口も年々増加し、特に若い子育て世代を中心に人口の流入が続いています。

全国的に人口減少・少子高齢化が進む中、平成22年度国勢調査では人口増加率は県内で1位、全国でも5位となり、以降も常に上位に位置しています。現在の人口は44,442人(平成27年度国勢調査)で、全国で11番目に人口の多い町となっています。

### ■バラ香る自然と調和したまち

埼玉県にはバラ園が多数点在していますが、その中でも伊奈町は「バラのまち」と言われるほどで、県内で最大の「伊奈町制施行記念公園 バラ園」があります。

記念公園の開園は昭和48年(1973年)ですが、バラ園は昭和62年度(1987年)から整備が始まり、約270株の比較的小規模なスペースでスタートしました。現在は、1.2ヘクタールものスペースに、約300種、約4,800株が植えられています。また、5～6月に開花する春バラだけでなく、10～11月に開花する秋バラも楽しめ、それぞれの開花時期に合わせて「バラまつり」が開催されています。

このバラ園を陰で支えるのは、バラ栽培の講習会を受講したOBで結成された町のボランティア「バラマスターズ」の皆さんです。バラまつりでもバラの栽培方法や施設案内などを行い、年間を通じてバラ園管理の一部を担っています。

### 伊奈町の概要

人口(H28年1月1日—住民基本台帳—)	44,437人
世帯数(同上)	17,554世帯
平均年齢(H28年埼玉県町(丁)字別人口調査)	42.4歳
生産年齢人口比率(同上)	61.7%
面積(H27年全国都道府県市町村別面積調)	14.79km <sup>2</sup>
名目市内総生産(H25年度市町村民経済計算)	1,368億4,200万円
製造品出荷額等(H26年工業統計)	914億4,150万円
事業所数(H26年経済センサス)	1,384事業所



県内最大のバラ園は、春バラだけでなく、秋バラも楽しめます。品種も多く、バラの季節には園内はバラの甘い香りが漂います。

バラまつりでは、色とりどりのバラを観賞できるほか、バラ苗や地元野菜などが販売され、フリーマーケットや郷土芸能、ミニコンサートなども行われ、毎年多くの来場者で賑わいます。年間10万人以上の来園者が訪れるバラ園は、まちを代表する観光スポットとなっています。

伊奈町ではバラ以外にも、米や野菜、梨やぶどうなどの栽培も盛んです。収穫の時期には農家の庭先や選果場などでも新鮮な農作物を購入できます。また、農産物直売所「四季彩館」では、農産物をはじめ、切花や鉢など、花農家のハウスから直接店頭並び、町外からも多くの方が訪れています。

### ■魅力あるまちづくりを発信中

平成28年(2016年)の5月に就任した大島清新町長は、上尾商工会議所に20年、伊奈町商工会に20年、伊奈町観光協会に7年という長い間、伊奈町の振興発展に携わってきました。豊富な経験を活かし、「常にみんなの声に耳を傾け・真摯な態度と感謝の気持ちを忘れず・多彩な人脈を活かしどンドン行動」をモットーに、「新生・伊奈町」の創造を推進しています。

緑豊かな環境を守り・育てながら、町の将来像である子供にとっても、高齢者となっても「ずっと住みたい 緑にあふれた キラキラ光る元気なまち」を目指すために、「福祉の充実と健康長寿のまちづくり」「教育の充実とスポーツのまちづくり」「産業振興で元気いっぱいなのまちづくり」「町民に優しく防災に強いまちづくり」「緑と自然を生かしたまちづくり」の5つを重点施策とし、実現に向けて推進しています。